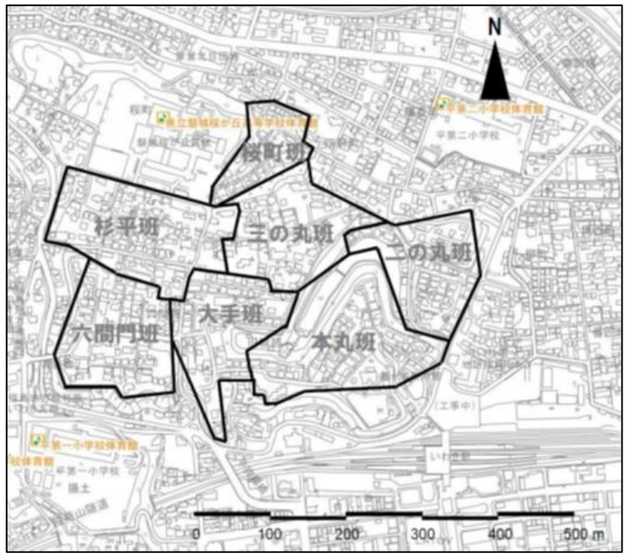
平城山地区防災計画の概要・特徴

■地域特性と予想される災害

地区の概要

地区の範囲	字　名：桜町の一部、城山、旧城跡、四軒町の一部、杉平、六間門 行政区：平 24 区
人口・世帯	約 600 世帯・3,020 人※
主な土地利用	住宅地、学校
指定避難所	県立磐城桜が丘高等学校、市立平第一小学校、市立平第二小学校
危険箇所等の指定状況	土砂災害警戒区域、急傾斜地崩壊危険箇所
地区内の主な活動団体（防災関連）	「城山自治会」の「災害に強いまちづくり部会」をはじめ、「白寿会」（老人会）、「城遊会」（青年会）、「子供会」（小学生）、「あやめ会」（婦人会）が活動。この他、「消防団」、「民生・児童委員」の活動や、「結の会」（高齢者の見守り）、児童の登下校の見守りが存在。「県立磐城桜が丘高等学校」の「ボランティア部」はマップ作成等により普及・啓発を実施。

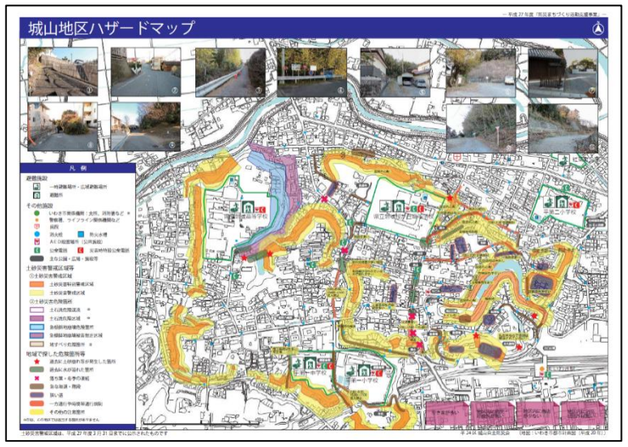
※「いわき市の推計人口統計」による（H28.4 現在。集計単位上、周辺の字を含む）



地区の位置

○いわき市の中心的な位置づけの平地区に含まれ、JR 常磐線の北側に位置する地区。主な土地利用は住宅地、学校。

○地区全体が旧磐城平城の城跡で、一部にはかつての濠などが残り、起伏が大きい地形。



地区の歴史

○**旧磐城平城の城下町**として、現在も地名・町名が残る**歴史ある地区**。

○明治以降は、廃藩置県により個人所有の住宅地になったほか、「学制」発布により、現在の県立磐城桜が丘高等学校等の中等教育機関が地区内に整備。

防災上の課題

【災害リスク】

○**過去から風水害による浸水や崖崩れ等が発生**、土砂災害警戒区域等の指定があり安全確保が必要。

○**古い木造家屋**が多く、火災予防や耐震化の対策が必要。

○**狭あい道路や坂道**が多いほか、**強風時には倒木**も発生。消防車等の**緊急車両の通行に支障**が出る恐れ。

【災害発生直前・発生時の避難行動の確立】

○**避難経路に坂道**が含まれ、不安の声あり。**夜の場合**の考慮、**自宅待機**や**身近な場所**での安全確保、お年寄りへの**早めの避難呼びかけ**等の確立が必要。

○この他にも、**【避難生活での助け合い】【日頃からの対応の強化】**が必要。

■活動の方針と計画

活動方針

＝城山自治会の「５つのまちづくり」＝

- ●健康長寿のまちづくり
- ●人をつなぎ、地域をつなぐまちづくり
- ●災害に強いまちづくり
- ●地域で子どもを守るまちづくり
- ●城山らしい環境のまちづくり

取り組みの体制

○城山自治会の**災害に強いまちづくり部会を中心**として、自治会内の他のまちづくり活動や補助団体等と連携して防災活動を実施。

○過去に自主防災会会員を募集した経緯があるが、今後、要支援者への支援や子どもたちの協力など、具体的行動を意識しながら役割や活動を構築。

日頃の取り組み

○（災害時の）**情報収集方法の確認、非常持出品や備蓄の準備、防災訓練、活動体制の整備、連絡体制の整備、要支援者の連絡・支援体制の準備、防災マップの継続的な見直し等、避難ルートの確認、指定避難所等の確認、食料等の備蓄、救助技術の取得、火災対策、倒木対策**に取り組む。

○連絡体制については、**顔が見える関係づくり**を目的に、区長・副区長・班長・組長の電話帳を作成し、**共有範囲は班で協議**して決定。**土砂災害警戒区域での災害発生時の連絡網**を、区長⇔該当区域のリーダー⇔該当者で構築。

○要支援者の連絡・支援体制については、**一人暮らしの高齢者を把握**し、サポーターを決めて支援。**高齢者の 2 人暮らしの場合**においては、可能な場合片方が支援するものとし、無理な場合はサポーターを定めて対応。

■災害時の活動

○まずは身を守ることが重要な「地震の場合」と、早めの行動が重要な「風水害・土砂災害の場合」に分けて、時間経過に沿って記載。

○**【地震の場合】**は、①初動行動、②出火防止・初期消火、③救出・救護、④避難、⑤指定避難所等の開設、⑥指定避難所等の運営、に分けて具体的な行動を記載。

○**【風水害・土砂災害の場合】**は、①発災前の行動、②避難のタイミング、③避難、④指定避難所等の開設、⑤指定避難所等の運営、に分けて具体的な行動を記載。

○夜の発災時の指定避難所の対応は、今後手順を明確化。

○日頃のコミュニティの中心である**「城山公民館」の活用可能性や活用手順**についても言及。

■実践と検証

○地区住民が災害時に防災活動を実践できるよう、**毎年 11 月５日近辺に「城山自治会防災訓練」を実施**。

○本計画を**継続して管理、見直す**こととし、見直しの際は、城山自治会が市へ報告。